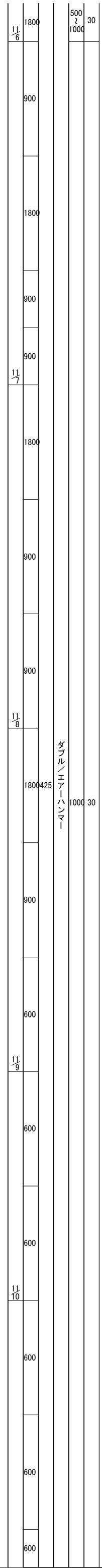
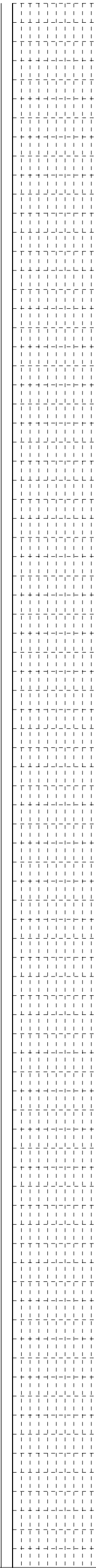
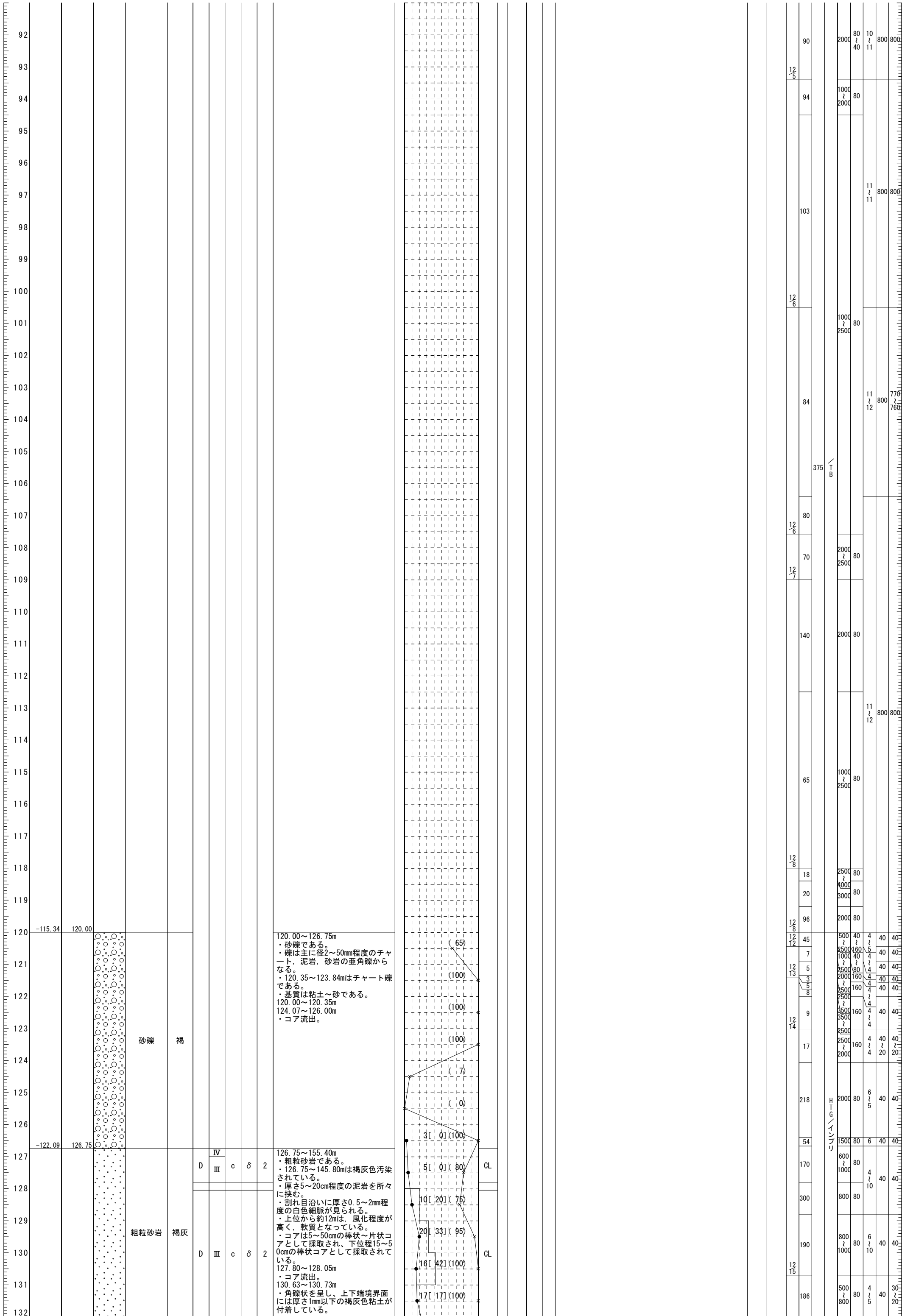


20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60





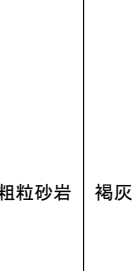
-115.34 120.00



D	IV	c	δ	2	
	III				

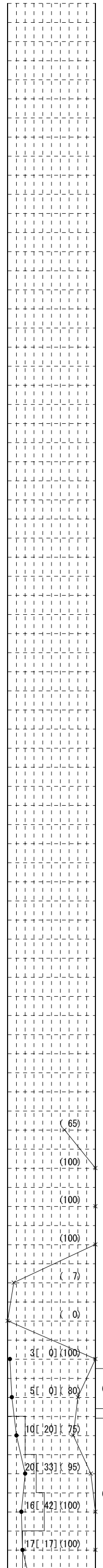
120.00~126.75m
 ・砂礫である。
 ・礫は主に径2~50mm程度のチャート、泥岩、砂岩の垂角礫からなる。
 ・120.35~123.84mはチャート礫である。
 ・基質は粘土〜砂である。
 120.00~120.35m
 124.07~126.00m
 ・コア流出。

-122.09 126.75



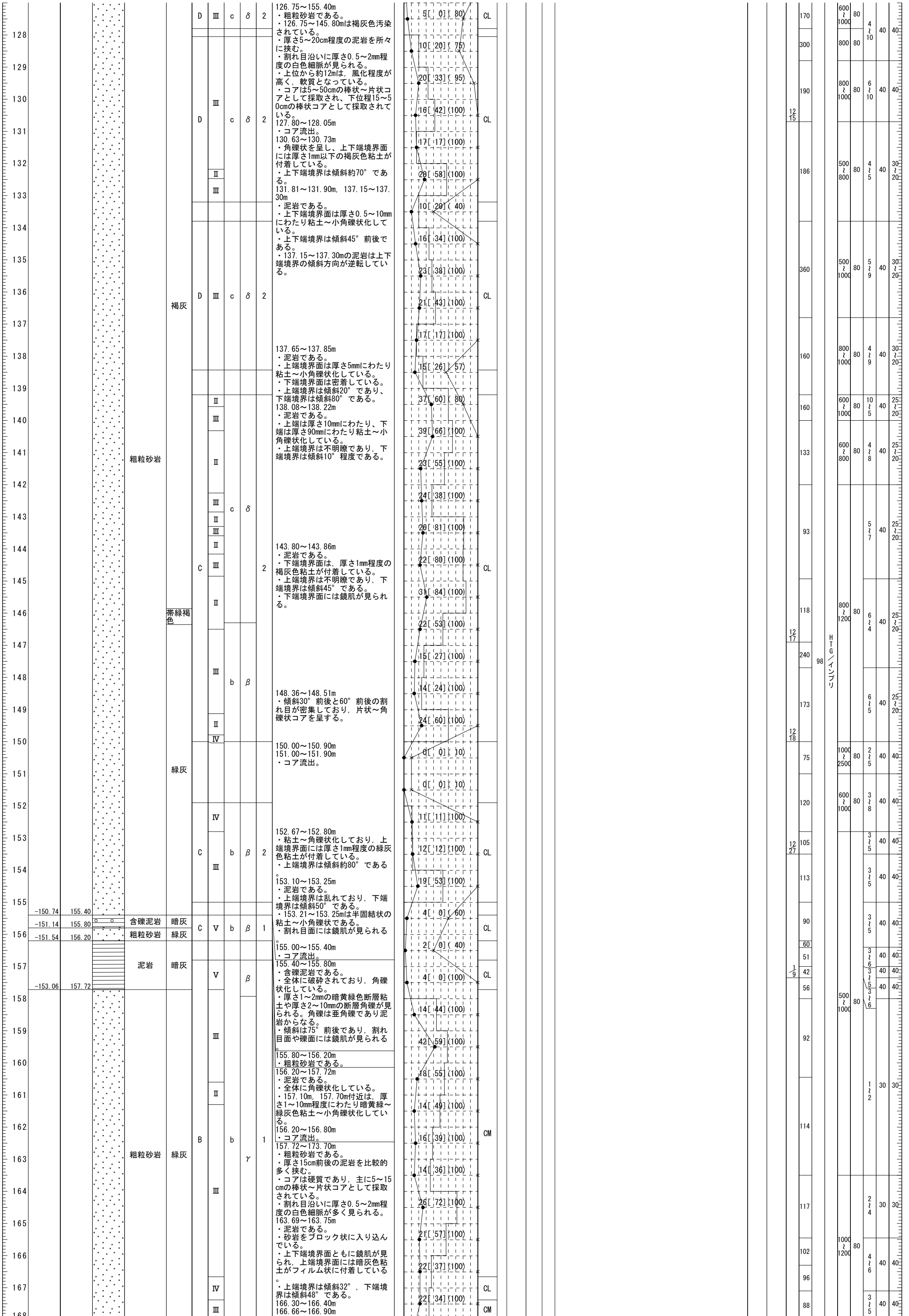
D	IV	c	δ	2	
	III				

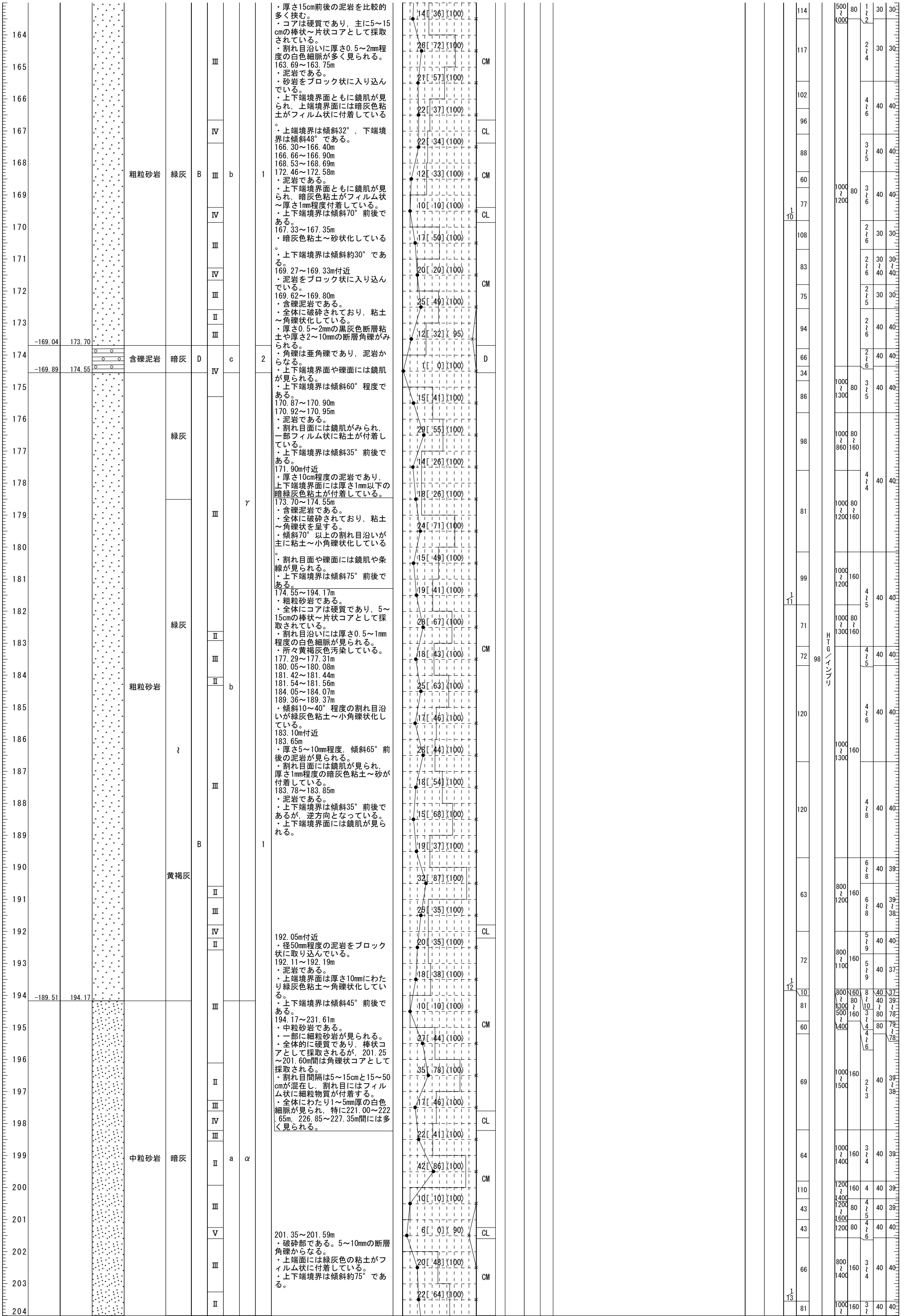
126.75~155.40m
 ・粗粒砂岩である。
 ・126.75~145.80mは褐灰色汚染されている。
 ・厚さ5~20cm程度の泥岩を所々に挟む。
 ・割れ目沿いに厚さ0.5~2mm程度の白色細脈が見られる。
 ・上位から約12mは、風化程度が高く、軟質となっている。
 ・コアは5~50cmの棒状~片状コアとして採取され、下位程15~50cmの棒状コアとして採取されている。
 127.80~128.05m
 ・コア流出。
 130.63~130.73m
 ・角礫状を呈し、上下端境界面には厚さ1mm以下の褐灰色粘土が付着している。

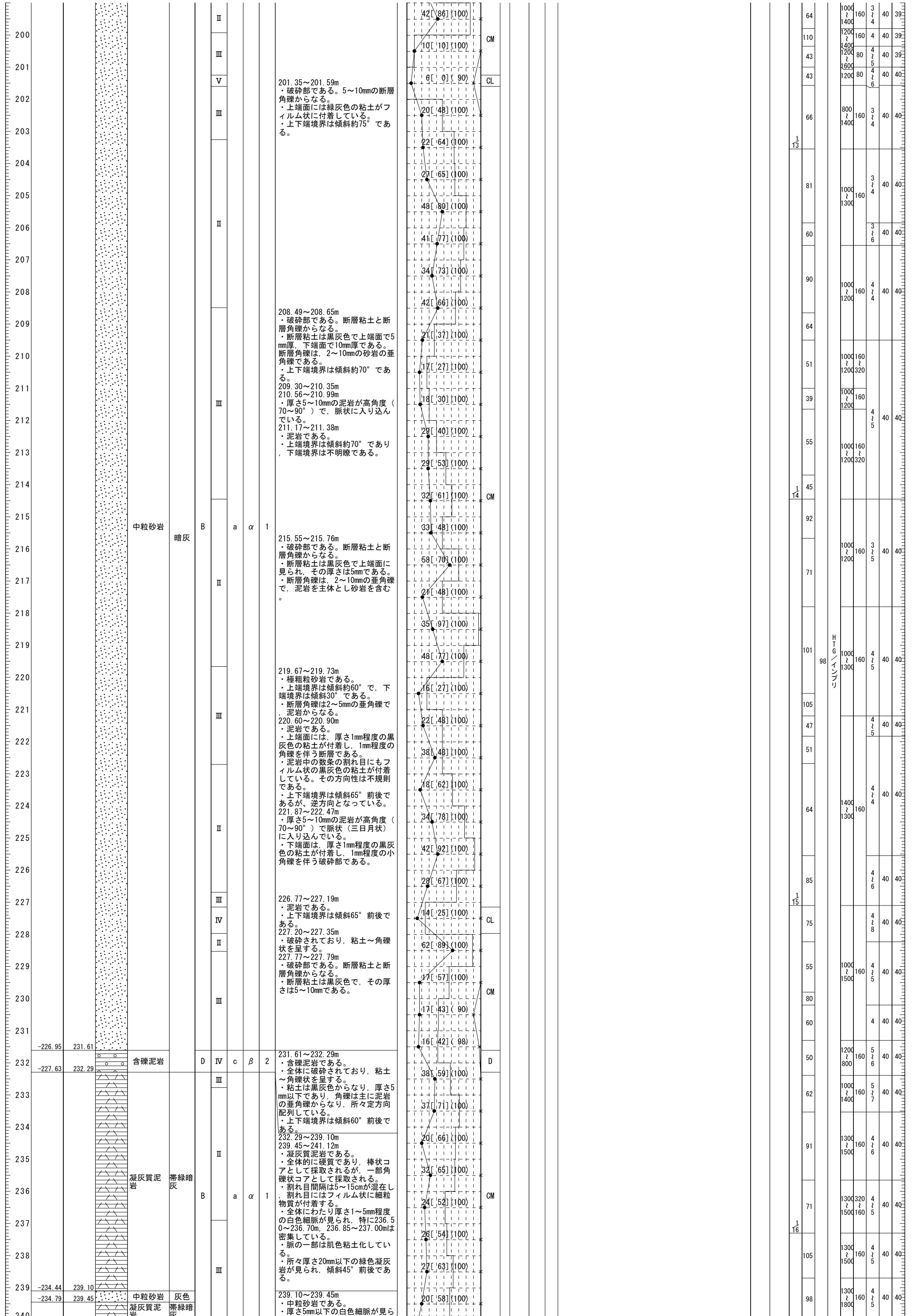


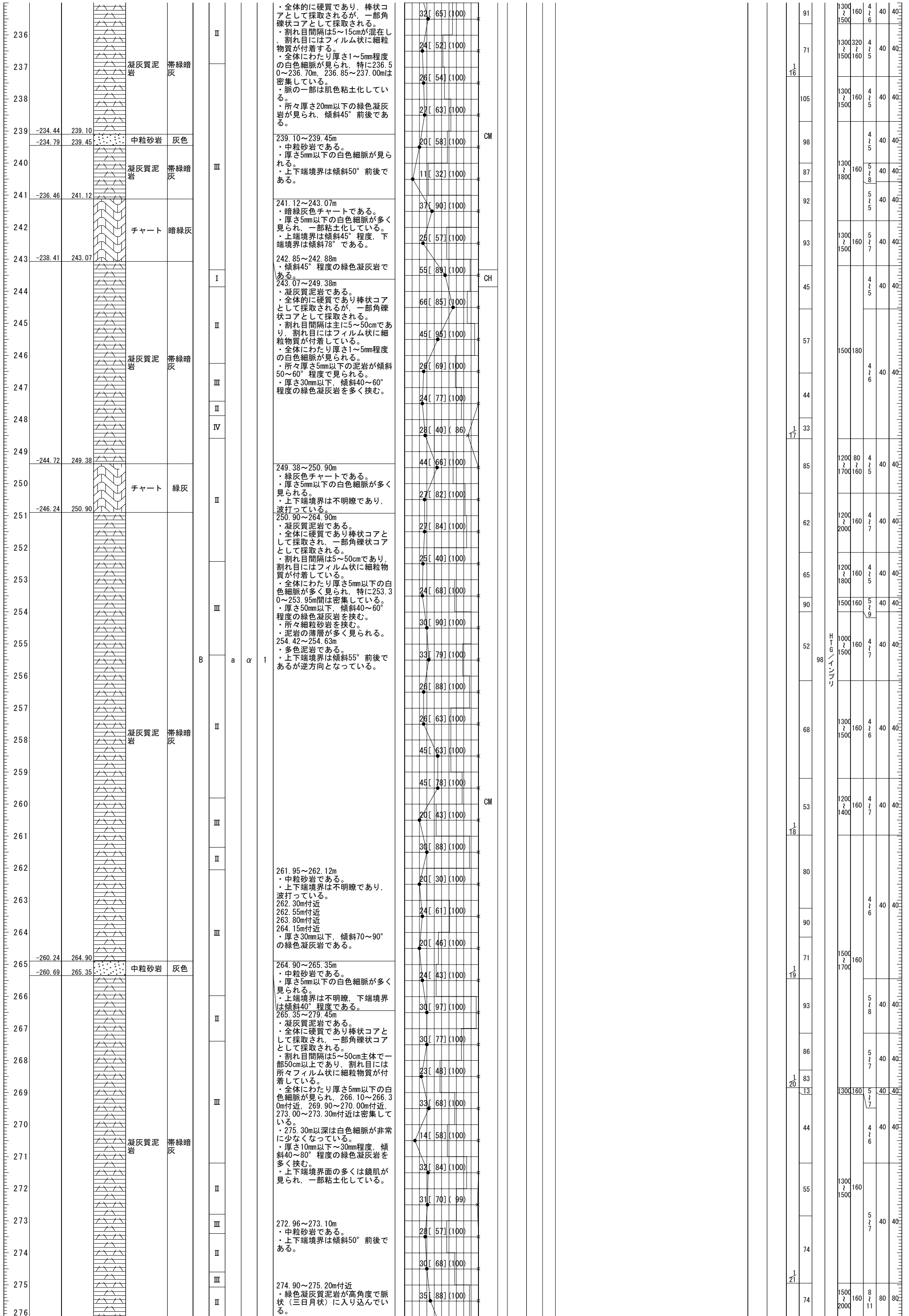
HTG

12 5	90	2000 ~ 400	80 ~ 11	800 ~ 800
12 6	94	1000 ~ 2000	80	
12 6	103		11 ~ 11	800 ~ 800
12 6	84	1000 ~ 2500	80	
12 6	375	/ T B		
12 6	80			
12 7	70	2000 ~ 2500	80	
12 7	140	2000	80	
12 8	65	1000 ~ 2500	80	
12 8	18	2500 ~ 4000	80	
12 8	20	3000	80	
12 8	96	2000	80	
12 12	45	500 ~ 1000	40 ~ 60	40 ~ 40
12 13	7	3500 ~ 2500	40 ~ 40	40 ~ 40
12 13	5	2500 ~ 2000	40 ~ 40	40 ~ 40
12 13	3	2500 ~ 2500	40 ~ 40	40 ~ 40
12 13	5	2500 ~ 2500	40 ~ 40	40 ~ 40
12 13	8	2500 ~ 3500	40 ~ 40	40 ~ 40
12 14	9	3500 ~ 3500	40 ~ 40	40 ~ 40
12 14	17	2500 ~ 2000	40 ~ 40	40 ~ 40
12 14	218	2000	6 ~ 5	40 ~ 40
12 15	54	1500 ~ 1000	6 ~ 10	40 ~ 40
12 15	170	600 ~ 1000	4 ~ 10	40 ~ 40
12 15	300	800	80	
12 15	190	800 ~ 1000	6 ~ 10	40 ~ 40
12 15	186	500 ~ 800	4 ~ 5	30 ~ 20









・全体的に硬質であり、棒状コアとして採取されるが、一部角礫状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~15cmが混在し、割れ目にはフィルム状に細粒物質が付着する。
 ・全体にわたり厚さ1~5mm程度の白色細脈が見られ、特に236.50~236.70m、236.85~237.00mは密集している。
 ・脈の一部は肌色粘土化している。
 ・所々厚さ20mm以下の緑色凝灰岩が見られ、傾斜45°前後である。

239.10~239.45m
 ・中粒砂岩である。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・上下端境界は傾斜50°前後である。

241.12~243.07m
 ・暗緑灰色チャートである。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が多く見られ、一部粘土化している。
 ・上端境界は傾斜45°程度、下端境界は傾斜78°である。

242.85~242.88m
 ・傾斜45°程度の緑色凝灰岩である。

243.07~249.38m
 ・凝灰質泥岩である。
 ・全体的に硬質であり棒状コアとして採取されるが、一部角礫状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は主に5~50cmであり、割れ目にはフィルム状に細粒物質が付着している。
 ・全体にわたり厚さ1~5mm程度の白色細脈が見られる。
 ・所々厚さ5mm以下の泥岩が傾斜50~60°程度で見られる。
 ・厚さ30mm以下、傾斜40~60°程度の緑色凝灰岩を多く挟む。

249.38~250.90m
 ・緑灰色チャートである。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が多く見られる。
 ・上下端境界は不明瞭であり、波打っている。

250.90~264.90m
 ・凝灰質泥岩である。
 ・全体に硬質であり棒状コアとして採取され、一部角礫状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~50cmであり、割れ目にはフィルム状に細粒物質が付着している。
 ・全体にわたり厚さ5mm以下の白色細脈が多く見られ、特に253.30~253.95m間は密集している。
 ・厚さ50mm以下、傾斜40~60°程度の緑色凝灰岩を挟む。
 ・所々細粒砂岩を挟む。
 ・泥岩の薄層が多く見られる。
 254.42~254.63m
 ・多色泥岩である。
 ・上下端境界は傾斜55°前後であるが逆方向となっている。

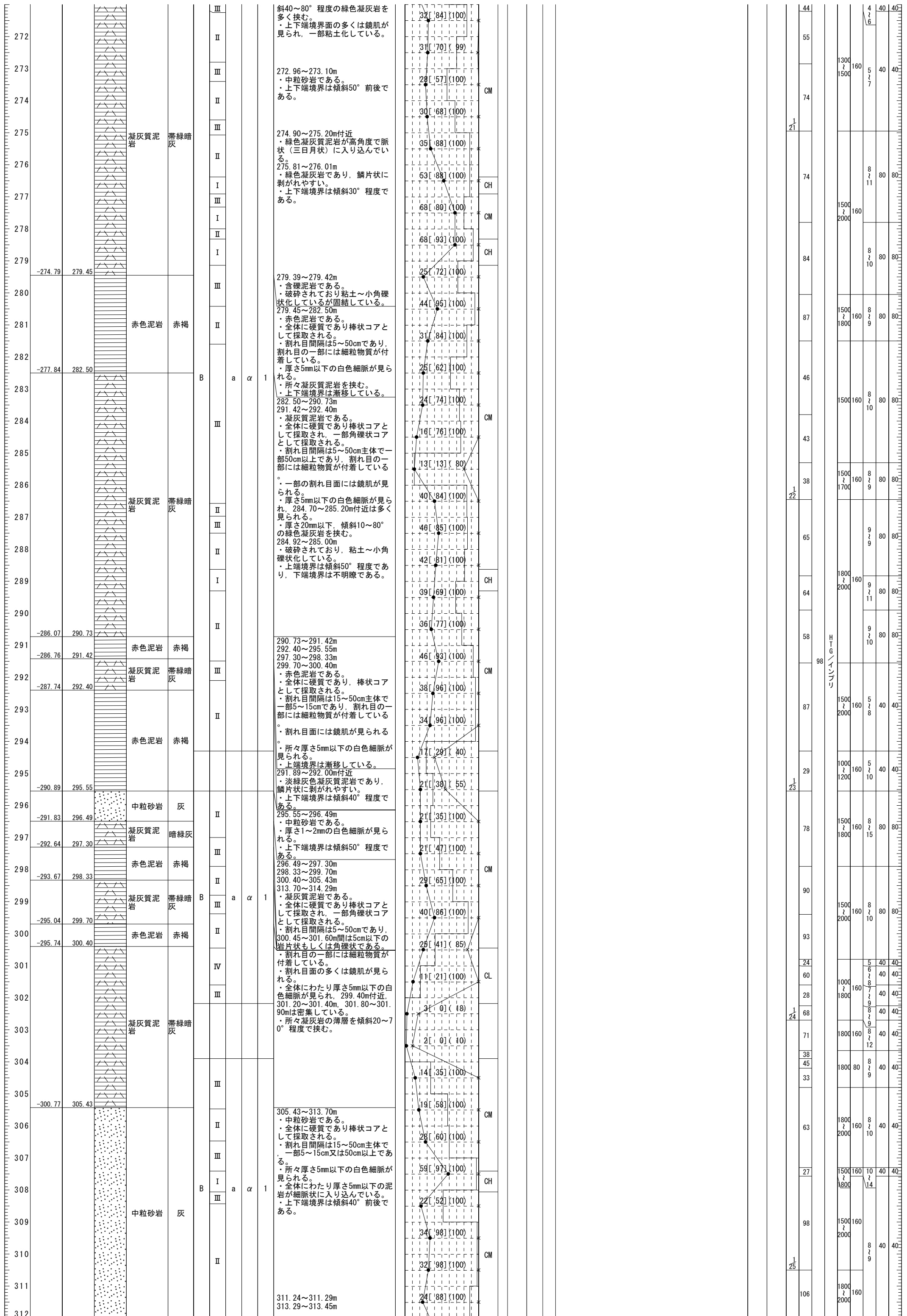
261.95~262.12m
 ・中粒砂岩である。
 ・上下端境界は不明瞭であり、波打っている。
 262.30m付近
 262.55m付近
 263.80m付近
 264.15m付近
 ・厚さ30mm以下、傾斜70~90°の緑色凝灰岩である。

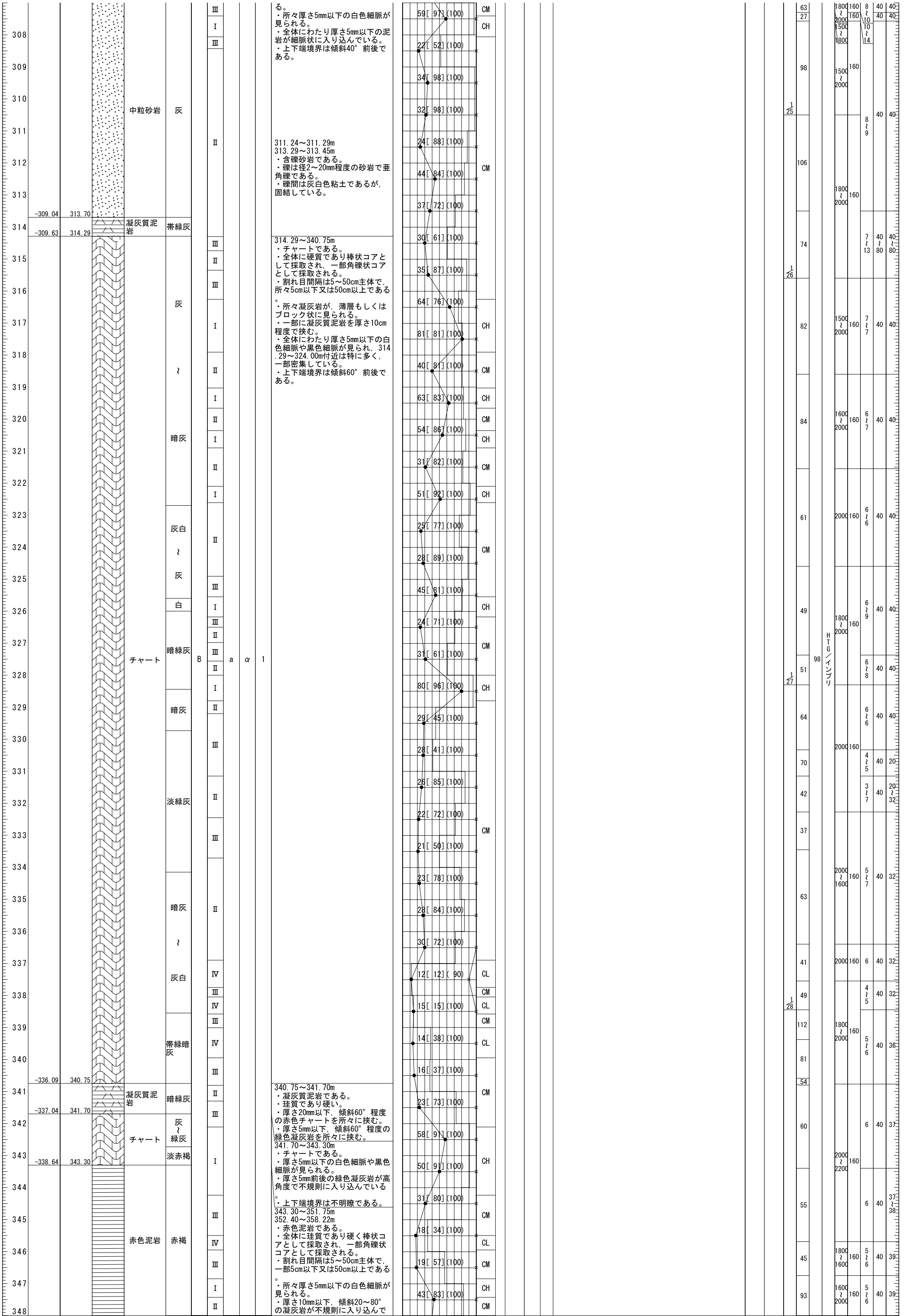
264.90~265.35m
 ・中粒砂岩である。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が多く見られる。
 ・上端境界は不明瞭、下端境界は傾斜40°程度である。
 265.35~279.45m
 ・凝灰質泥岩である。
 ・全体に硬質であり棒状コアとして採取され、一部角礫状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~50cm主体で一部50cm以上であり、割れ目には所々フィルム状に細粒物質が付着している。
 ・全体にわたり厚さ5mm以下の白色細脈が見られ、266.10~266.30m付近、269.90~270.00m付近、273.00~273.30m付近は密集している。
 ・275.30m以深は白色細脈が非常に少なくなっている。
 ・厚さ10mm以下~30mm程度、傾斜40~80°程度の緑色凝灰岩を多く挟む。
 ・上下端境界面の多くは鏡肌が見られ、一部粘土化している。

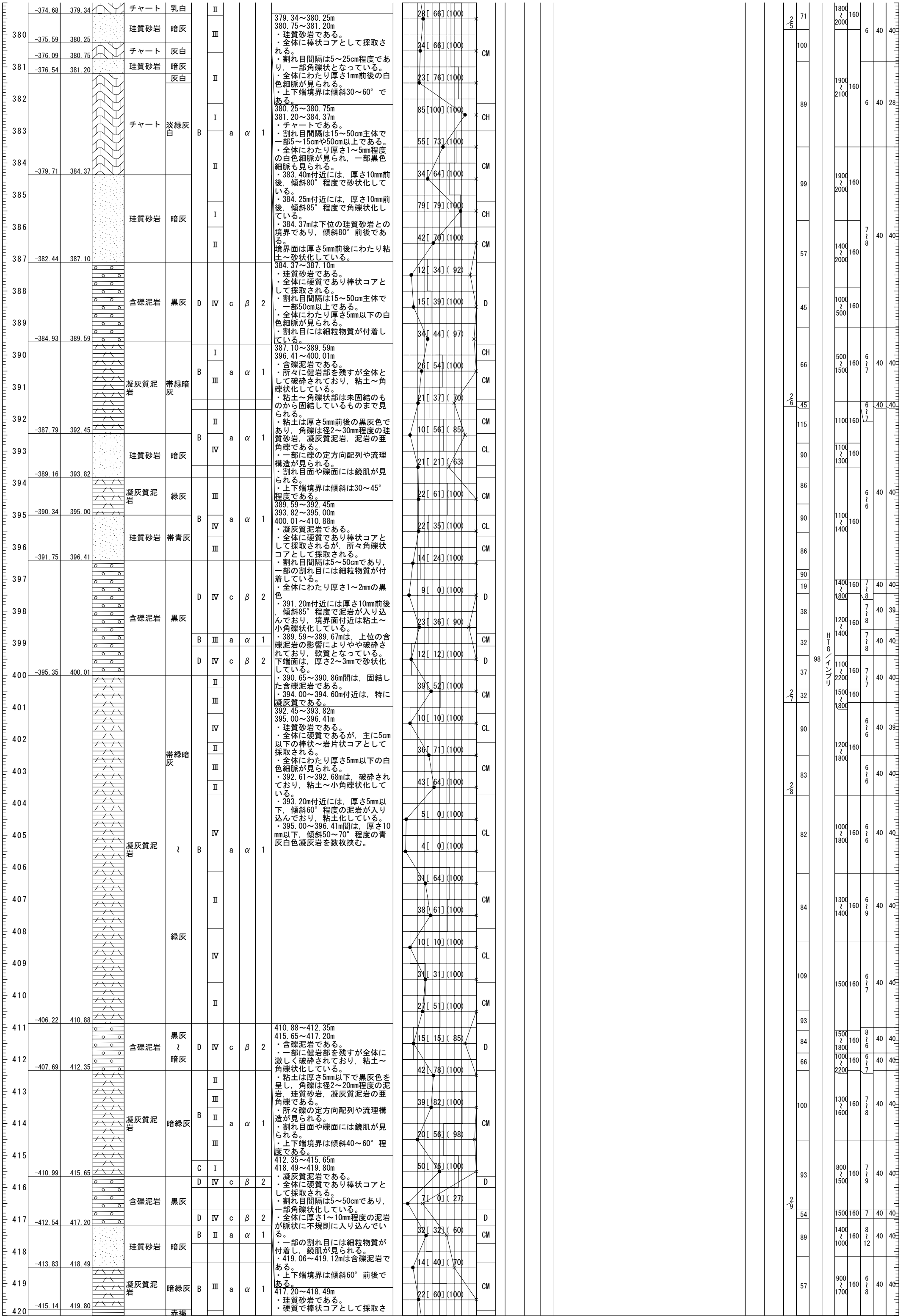
272.96~273.10m
 ・中粒砂岩である。
 ・上下端境界は傾斜50°前後である。

274.90~275.20m付近
 ・緑色凝灰質泥岩が高角度で脈状(三日月状)に入り込んでいる。

H T G / インフ







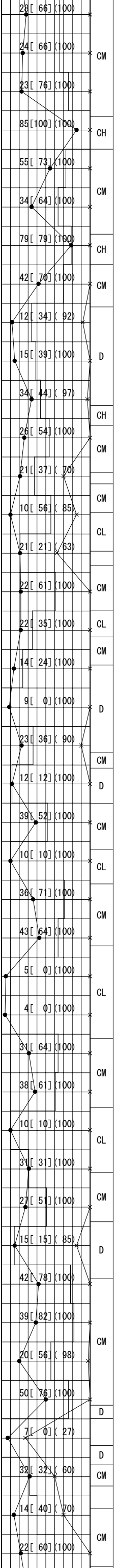
379.34~380.25m
380.75~381.20m
・珪質砂岩である。
・全体に棒状コアとして採取される。
・割れ目間隔は5~25cm程度であり、一部角礫状となっている。
・全体にわたり厚さ1mm前後の白色細脈が見られる。
・上下端境界は傾斜30~60°である。

380.25~380.75m
381.20~384.37m
・チャートである。
・割れ目間隔は15~50cm主体で一部5~15cmや50cm以上である。
・全体にわたり厚さ1~5mm程度の白色細脈が見られ、一部黒色細脈も見られる。
・383.40m付近には、厚さ10mm前後、傾斜80°程度で砂状化している。
・384.25m付近には、厚さ10mm前後、傾斜85°程度で角礫状化している。
・384.37mは下位の珪質砂岩との境界であり、傾斜80°前後である。
境界面は厚さ5mm前後にわたり粘土~砂状化している。

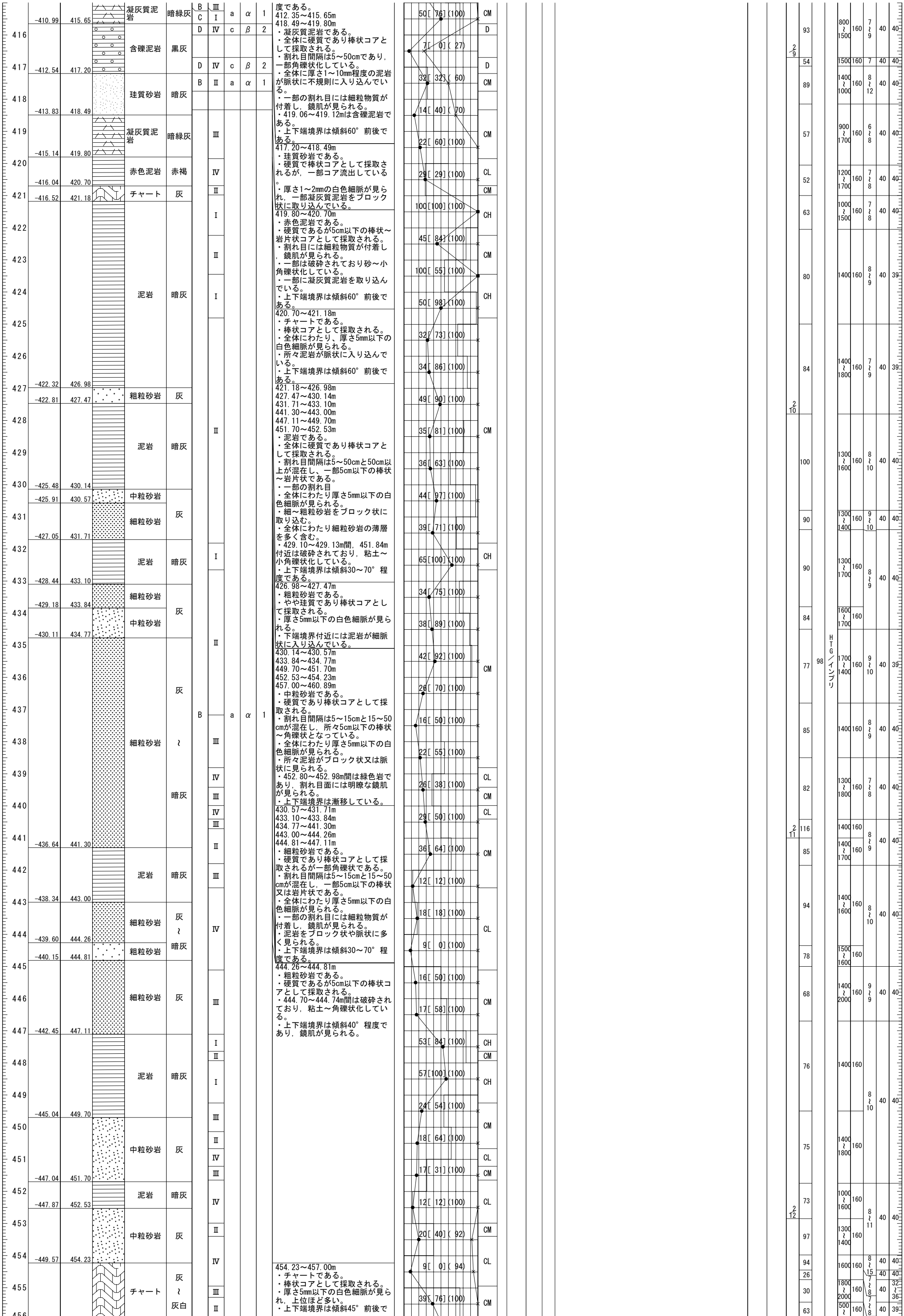
384.37~387.10m
・珪質砂岩である。
・全体に硬質であり棒状コアとして採取される。
・割れ目間隔は15~50cm主体で一部50cm以上である。
・全体にわたり厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
・割れ目には細粒物質が付着している。

387.10~389.59m
389.59~392.45m
392.45~393.82m
393.82~395.00m
395.00~400.01m
400.01~410.88m
・凝灰質泥岩である。
・全体に硬質であり棒状コアとして採取されるが、所々角礫状コアとして採取される。
・割れ目間隔は5~50cmであり、一部の割れ目には細粒物質が付着している。
・全体にわたり厚さ1~2mmの黒色
・391.20m付近には厚さ10mm前後、傾斜85°程度で泥岩が入り込んでおり、境界面付近は粘土~小角礫状化している。
・389.59~389.67mは、上位の含礫泥岩の影響によりやや破碎されており、軟質となっている。
下端面は、厚さ2~3mmで砂状化している。
・390.65~390.86m間は、固結した含礫泥岩である。
・394.00~394.60m付近は、特に凝灰質である。
392.45~393.82m
395.00~396.41m
・珪質砂岩である。
・全体に硬質であるが、主に5cm以下の棒状~岩片状コアとして採取される。
・全体にわたり厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
・392.61~392.68mは、破碎されており、粘土~小角礫状化している。
・393.20m付近には、厚さ5mm以下、傾斜60°程度の泥岩が入り込んでおり、粘土化している。
・395.00~396.41m間は、厚さ10mm以下、傾斜50~70°程度の青灰白色凝灰岩を数枚挟む。

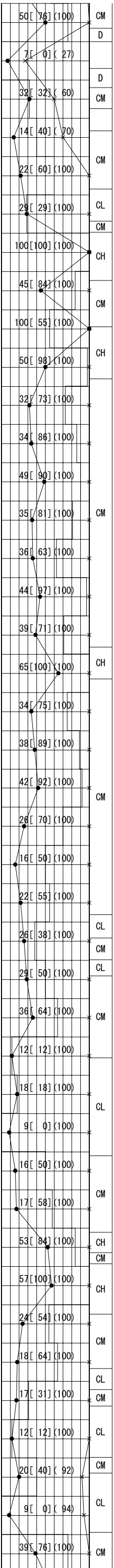
410.88~412.35m
412.35~415.65m
415.65~417.20m
417.20~418.49m
418.49~419.80m
419.80~420.00m
・含礫泥岩である。
・一部に健岩部を残すが全体に激しく破碎されており、粘土~角礫状化している。
・粘土は厚さ5mm以下で黒灰色を呈し、角礫は径2~20mm程度の泥岩、珪質砂岩、凝灰質泥岩の垂角礫である。
・所々礫の定方向配列や流理構造が見られる。
・割れ目面や礫面には鏡肌が見られる。
・上下端境界は傾斜40~60°程度である。
412.35~415.65m
418.49~419.80m
・凝灰質泥岩である。
・全体に硬質であり棒状コアとして採取される。
・割れ目間隔は5~50cmであり、一部角礫状化している。
・全体に厚さ1~10mm程度の泥岩が脈状に不規則に入り込んでいる。
・一部の割れ目には細粒物質が付着し、鏡肌が見られる。
・419.06~419.12mは含礫泥岩である。
・上下端境界は傾斜60°前後である。
417.20~418.49m
・珪質砂岩である。
・硬質で棒状コアとして採取さ



2/5	71	1800 2000	160	6	40	40
	100					
	89	1900 2100	160	6	40	28
	99	1900 2000	160			
	57	1400 2000	160	7 8	40	40
	45	1000 500	160			
	66	500 1500	160	6 7	40	40
2/6	45			6 7	40	40
	115	1100	160			
	90	1100 1300	160			
	86			6 6	40	40
	90	1100 1400	160			
	86					
	90					
	19	1400 1800	160	7 8	40	40
	38	1200 1400	160	7 8	40	39
	32			7 8	40	40
	37	1100 2200	160	7 7	40	40
2/7	32	1500 1800	160			
	90			6 6	40	39
	83	1200 1800	160	6 6	40	40
2/8						
	82	1000 1800	160	6 6	40	40
	84	1300 1400	160	6 9	40	40
	109	1500	160	6 7	40	40
	93					
	84	1500 1800	160	8 6	40	40
	66	1000 2200	160	6 7	40	40
	100	1300 1600	160	7 8	40	40
	93	800 1500	160	7 9	40	40
2/9						
	54	1500	160	7 40	40	40
	89	1400 1000	160	8 12	40	40
	57	900 1700	160	6 8	40	40

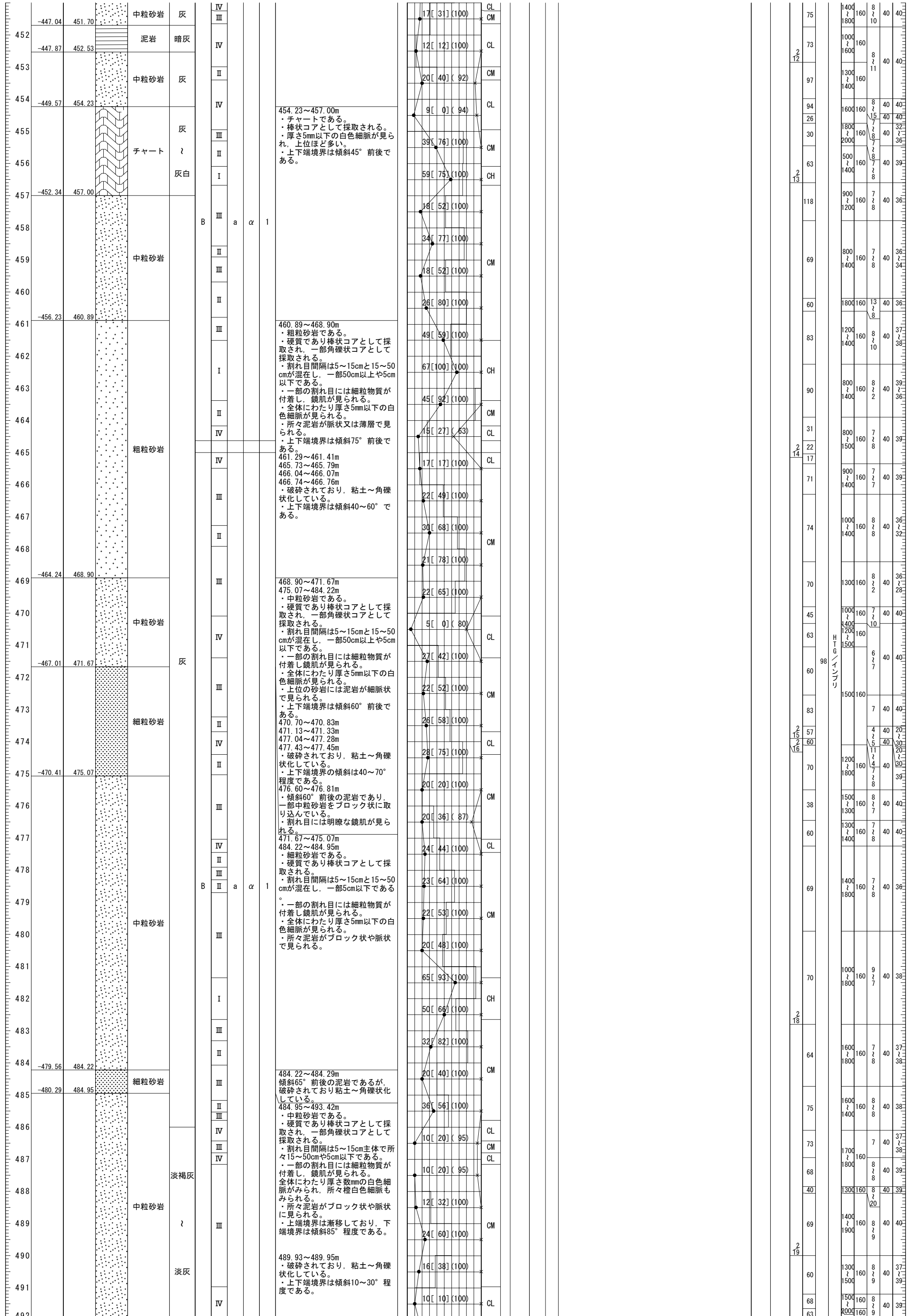


度である。
 412.35~415.65m
 418.49~419.80m
 ・凝灰質泥岩である。
 ・全体に硬質であり棒状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~50cmであり、一部角礫状化している。
 ・全体に厚さ1~10mm程度の泥岩が脈状に不規則に入り込んでいる。
 ・一部の割れ目には細粒物質が付着し、鏡肌が見られる。
 ・419.06~419.12mは含礫泥岩である。
 ・上下端境界は傾斜60°前後である。
 417.20~418.49m
 ・珪質砂岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取されるが、一部コア流出している。
 ・厚さ1~2mmの白色細脈が見られ、一部凝灰質泥岩をブロック状に取り込んでいる。
 419.80~420.70m
 ・赤色泥岩である。
 ・硬質であるが5cm以下の棒状~岩片状コアとして採取される。
 ・割れ目には細粒物質が付着し、鏡肌が見られる。
 ・一部は破碎されており砂~小角礫状化している。
 ・一部に凝灰質泥岩を取り込んでいる。
 ・上下端境界は傾斜60°前後である。
 420.70~421.18m
 ・チャートである。
 ・棒状コアとして採取される。
 ・全体にわたり、厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・所々泥岩が脈状に入り込んでいる。
 ・上下端境界は傾斜60°前後である。
 421.18~426.98m
 421.18~426.98m
 427.47~430.14m
 431.71~433.10m
 441.30~443.00m
 447.11~449.70m
 451.70~452.53m
 ・泥岩である。
 ・全体に硬質であり棒状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~50cmと50cm以上が混在し、一部5cm以下の棒状~岩片状である。
 ・一部の割れ目
 ・全体にわたり厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・細~粗粒砂岩をブロック状に取り込む。
 ・全体にわたり細粒砂岩の薄層を多く含む。
 ・429.10~429.13m間、451.84m付近は破碎されており、粘土~小角礫状化している。
 ・上下端境界は傾斜30~70°程度である。
 426.98~427.47m
 ・粗粒砂岩である。
 ・やや珪質であり棒状コアとして採取される。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・下端境界付近には泥岩が細脈状に入り込んでいる。
 430.14~430.57m
 433.84~434.77m
 449.70~451.70m
 452.53~454.23m
 457.00~460.89m
 ・中粒砂岩である。
 ・硬質であり棒状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~15cmと15~50cmが混在し、所々5cm以下の棒状~角礫状となっている。
 ・全体にわたり厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・所々泥岩がブロック状又は脈状に見られる。
 ・452.80~452.98m間は緑色岩であり、割れ目面には明瞭な鏡肌が見られる。
 ・上下端境界は漸移している。
 430.57~431.71m
 433.10~433.84m
 434.77~441.30m
 443.00~444.26m
 444.81~447.11m
 ・細粒砂岩である。
 ・硬質であり棒状コアとして採取されるが一部角礫状である。
 ・割れ目間隔は5~15cmと15~50cmが混在し、一部5cm以下の棒状又は岩片状である。
 ・全体にわたり厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・一部の割れ目には細粒物質が付着し、鏡肌が見られる。
 ・泥岩をブロック状や脈状に多く見られる。
 ・上下端境界は傾斜30~70°程度である。
 444.26~444.81m
 ・粗粒砂岩である。
 ・硬質であるが5cm以下の棒状コアとして採取される。
 ・444.70~444.74m間は破碎されており、粘土~角礫状化している。
 ・上下端境界は傾斜40°程度であり、鏡肌が見られる。

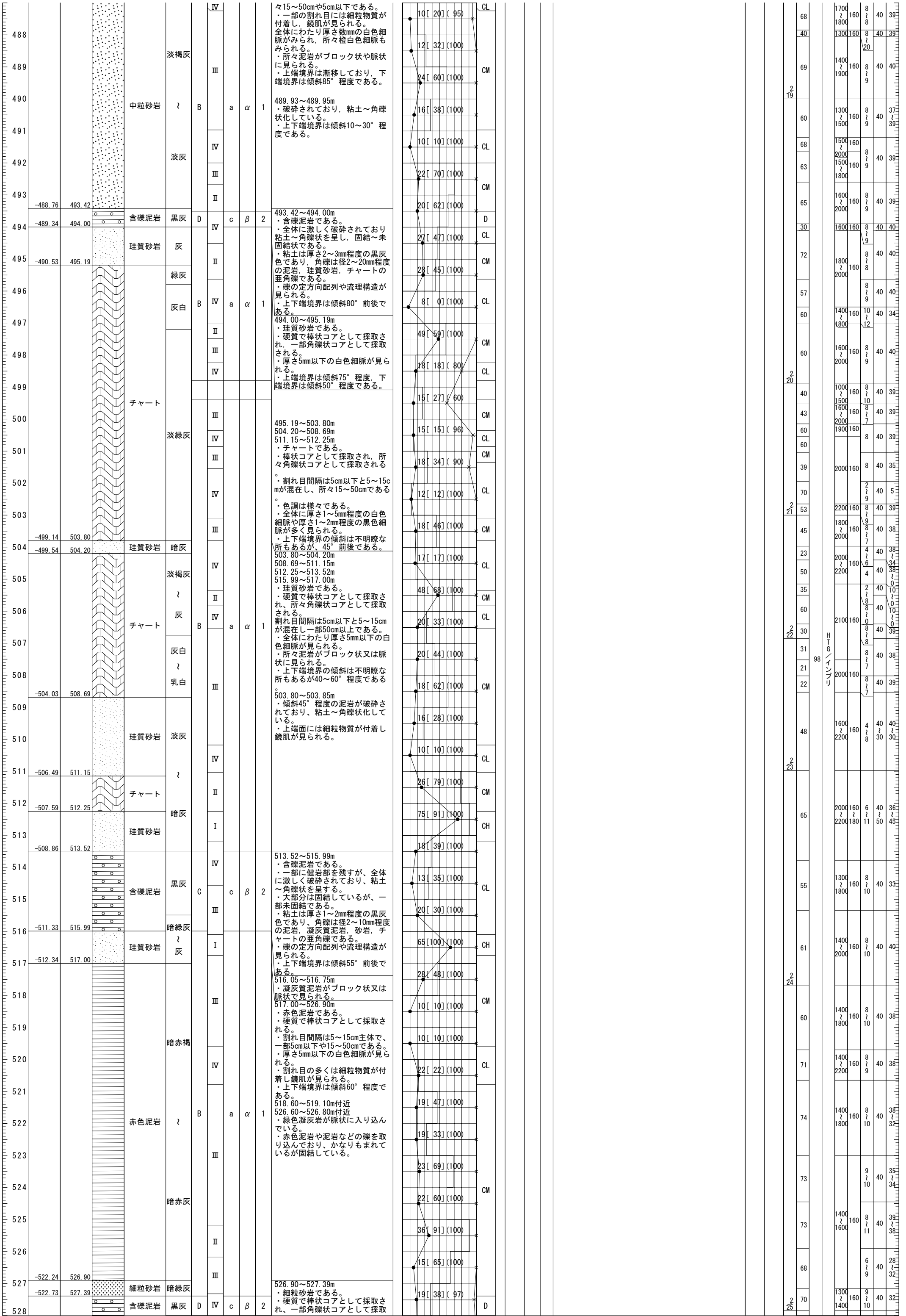


93	800 1500	160	7 9	40	40
54	1500 1600	160	7 12	40	40
89	1400 1000	160	8 12	40	40
57	900 1700	160	6 8	40	40
52	1200 1700	160	7 8	40	40
63	1000 1500	160	7 8	40	40
80	1400	160	8 9	40	39
84	1400 1800	160	7 9	40	39
100	1300 1600	160	8 10	40	40
90	1300 1400	160	9 10	40	40
90	1300 1700	160	8 9	40	40
84	1600 1700	160			
77	1700 1400	160	9 10	40	39
85	1400	160	8 9	40	40
82	1300 1800	160	7 8	40	40
116	1400	160	8 9	40	40
85	1400 1700	160	8 9	40	40
94	1400 1600	160	8 10	40	40
78	1500 1600	160			
68	1400 2000	160	9 9	40	40
76	1400	160			
75	1400 1800	160	8 10	40	40
73	1000 1600	160	8 11	40	40
97	1300 1400	160	8 11	40	40
94	1600	160	8 15	40	40
26	1800 2000	160	8 8	40	32 36
30	500 1600	160	8 8	40	39
63					

H T G / インプリ

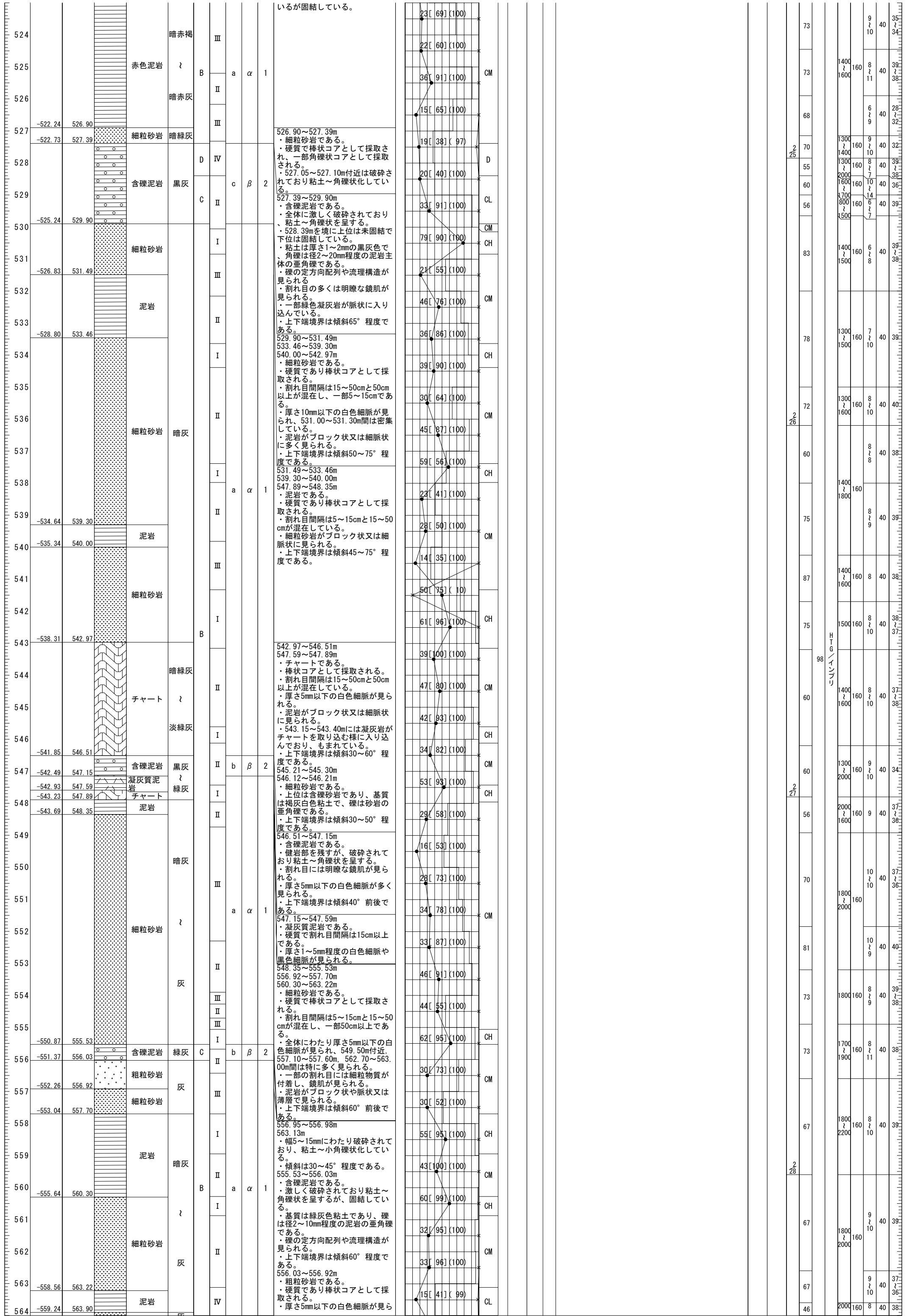


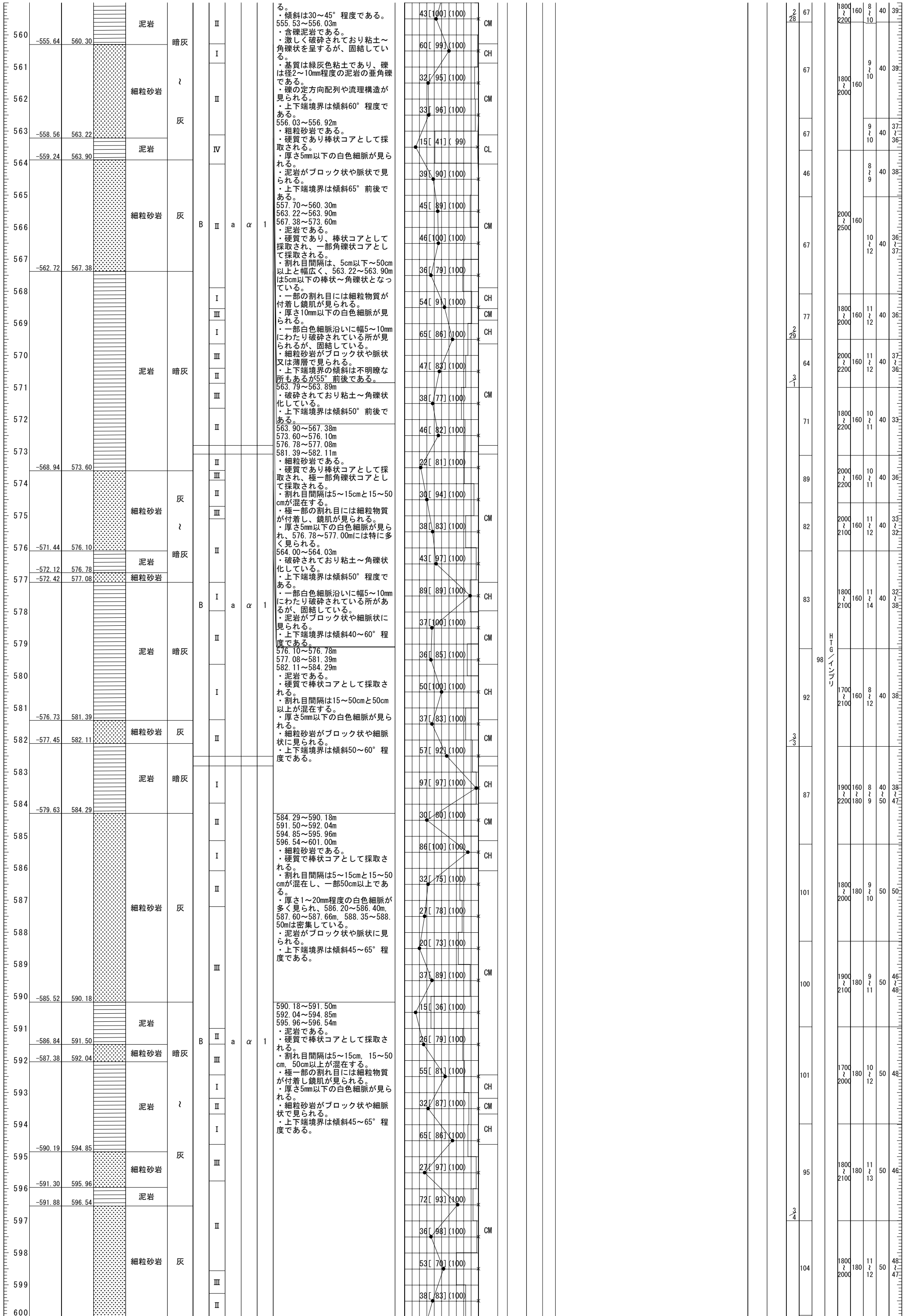
Depth (m)	HTG	HTG	HTG	HTG	HTG
75	1400	160	8	40	40
73	1000	160	8	40	40
97	1300	160	8	40	40
94	1600	160	8	40	40
26	1800	160	8	40	40
30	2000	160	8	40	40
63	500	160	8	40	40
118	900	160	8	40	40
69	800	160	8	40	40
60	1800	160	13	40	40
83	1200	160	8	40	40
90	800	160	8	40	40
31	800	160	7	40	40
22	800	1500	160	8	40
17	900	160	7	40	40
71	1000	160	8	40	40
74	1000	160	8	40	40
70	1300	160	8	40	40
45	1000	160	7	40	40
63	1000	160	7	40	40
60	1500	160	6	40	40
83	1500	160	7	40	40
57	1200	160	4	40	40
60	1200	160	5	40	40
70	1200	160	11	40	40
38	1500	160	8	40	40
60	1300	160	7	40	40
69	1400	160	7	40	40
70	1000	160	9	40	40
64	1600	160	7	40	40
75	1600	160	8	40	40
73	1700	160	7	40	40
68	1700	160	8	40	40
40	1300	160	8	40	40
69	1400	160	8	40	40
60	1300	160	8	40	40
68	1500	160	8	40	40
63	1500	160	8	40	40



々15~50cmや5cm以下である。
 ・一部の割れ目には細粒物質が
 付着し、鏡肌が見られる。
 全体にわたり厚さ数mmの白色細
 脈がみられ、所々橙白色細脈も
 みられる。
 ・所々泥岩がブロック状や脈状
 に見られる。
 ・上端境界は漸移しており、下
 端境界は傾斜85°程度である。
 489.93~489.95m
 ・破碎されており、粘土~角礫
 状化している。
 ・上下端境界は傾斜10~30°程
 度である。
 493.42~494.00m
 ・含礫泥岩である。
 ・全体に激しく破碎されており
 粘土~角礫状を呈し、固結~未
 固結状である。
 ・粘土は厚さ2~3mm程度の黒灰
 色であり、角礫は径2~20mm程
 度の泥岩、珪質砂岩、チャートの
 垂角礫である。
 ・礫の定方向配列や流理構造が
 見られる。
 ・上下端境界は傾斜80°前後で
 ある。
 494.00~495.19m
 ・珪質砂岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取さ
 れ、一部角礫状コアとして採取
 される。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見ら
 れる。
 ・上端境界は傾斜75°程度、下
 端境界は傾斜50°程度である。
 495.19~503.80m
 504.20~508.69m
 511.15~512.25m
 ・チャートである。
 ・棒状コアとして採取され、所
 々角礫状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5cm以下と5~15c
 mが混在し、所々15~50cmである。
 ・色調は様々である。
 ・全体に厚さ1~5mm程度の白色
 細脈や厚さ1~2mm程度の黒色細
 脈が多く見られる。
 ・上下端境界の傾斜は不明瞭な
 所もあるが、45°前後である。
 503.80~504.20m
 508.69~511.15m
 512.25~513.52m
 515.99~517.00m
 ・珪質砂岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取さ
 れ、所々角礫状コアとして採取
 される。
 割れ目間隔は5cm以下と5~15cm
 が混在し一部50cm以上である。
 ・全体にわたり厚さ5mm以下の白
 色細脈が見られる。
 ・所々泥岩がブロック状又は脈
 状に見られる。
 ・上下端境界の傾斜は不明瞭な
 所もあるが40~60°程度である。
 503.80~503.85m
 ・傾斜45°程度の泥岩が破碎さ
 れており、粘土~角礫状化して
 いる。
 ・上端面には細粒物質が付着し
 鏡肌が見られる。
 513.52~515.99m
 ・含礫泥岩である。
 ・一部に健岩部を残すが、全体
 に激しく破碎されており、粘土
 ~角礫状を呈する。
 ・大部分は固結しているが、一
 部未固結である。
 ・粘土は厚さ1~2mm程度の黒灰
 色であり、角礫は径2~10mm程
 度の泥岩、凝灰質泥岩、砂岩、チ
 ャートの垂角礫である。
 ・礫の定方向配列や流理構造が
 見られる。
 ・上下端境界は傾斜55°前後で
 ある。
 516.05~516.75m
 ・凝灰質泥岩がブロック状又は
 脈状で見られる。
 517.00~526.90m
 ・赤色泥岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取さ
 れる。
 ・割れ目間隔は5~15cm主体で、
 一部5cm以下や15~50cmである。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見ら
 れる。
 ・割れ目の多くは細粒物質が付
 着し鏡肌が見られる。
 ・上下端境界は傾斜60°程度で
 ある。
 518.60~519.10m付近
 526.60~526.80m付近
 ・緑色凝灰岩が脈状に入り込ん
 でいる。
 ・赤色泥岩や泥岩などの礫を取り
 込んでおり、かなりもまれて
 いるが固結している。
 526.90~527.39m
 ・細粒砂岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取さ
 れ、一部角礫状コアとして採取

HTG / インブリ





560 ~ 561 m: 傾斜は30~45°程度である。555.53~556.03m
 ・含礫泥岩である。
 ・激しく破砕されており粘土~角礫状を呈するが、固結している。
 ・基質は緑灰色粘土であり、礫は径2~10mm程度の泥岩の垂角礫である。
 ・礫の定方向配列や流理構造が見られる。
 ・上下端境界は傾斜60°程度である。
 561 ~ 563 m: 556.03~556.92m
 ・粗粒砂岩である。
 ・硬質であり棒状コアとして採取される。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・泥岩がブロック状や脈状で見られる。
 ・上下端境界は傾斜65°前後である。
 563 ~ 567 m: 557.70~560.30m
 563.22~563.90m
 567.38~573.60m
 ・泥岩である。
 ・硬質であり、棒状コアとして採取され、一部角礫状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は、5cm以下~50cm以上と幅広く、563.22~563.90mは5cm以下の棒状~角礫状となっている。
 ・一部の割れ目には細粒物質が付着し鏡肌が見られる。
 ・厚さ10mm以下の白色細脈が見られる。
 ・一部白色細脈沿いに幅5~10mmにわたり破砕されている所が見られるが、固結している。
 ・細粒砂岩がブロック状や脈状又は薄層で見られる。
 ・上下端境界の傾斜は不明瞭な所もあるが55°前後である。
 567 ~ 573 m: 563.79~563.89m
 ・破砕されており粘土~角礫状化している。
 ・上下端境界は傾斜50°前後である。
 573 ~ 574 m: 563.90~567.38m
 573.60~576.10m
 576.78~577.08m
 581.39~582.11m
 ・細粒砂岩である。
 ・硬質であり棒状コアとして採取され、極一部角礫状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~15cmと15~50cmが混在する。
 ・極一部の割れ目には細粒物質が付着し、鏡肌が見られる。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見られ、576.78~577.00mには特に多く見られる。
 574 ~ 576 m: 564.00~564.03m
 ・破砕されており粘土~角礫状化している。
 ・上下端境界は傾斜50°程度である。
 ・一部白色細脈沿いに幅5~10mmにわたり破砕されている所があるが、固結している。
 ・泥岩がブロック状や細脈状で見られる。
 ・上下端境界は傾斜40~60°程度である。
 576 ~ 582 m: 576.10~576.78m
 577.08~581.39m
 582.11~584.29m
 ・泥岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は15~50cmと50cm以上が混在する。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・細粒砂岩がブロック状や細脈状で見られる。
 ・上下端境界は傾斜50~60°程度である。
 582 ~ 584 m: 584.29~590.18m
 591.50~592.04m
 594.85~595.96m
 596.54~601.00m
 ・細粒砂岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~15cmと15~50cmが混在し、一部50cm以上である。
 ・厚さ1~20mm程度の白色細脈が多く見られ、586.20~586.40m、587.60~587.66m、588.35~588.50mは密集している。
 ・泥岩がブロック状や脈状で見られる。
 ・上下端境界は傾斜45~65°程度である。
 584 ~ 592 m: 590.18~591.50m
 592.04~594.85m
 595.96~596.54m
 ・泥岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~15cm、15~50cm、50cm以上が混在する。
 ・極一部の割れ目には細粒物質が付着し鏡肌が見られる。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・細粒砂岩がブロック状や細脈状で見られる。
 ・上下端境界は傾斜45~65°程度である。
 592 ~ 594 m: 590.18~591.50m
 592.04~594.85m
 595.96~596.54m
 ・泥岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~15cm、15~50cm、50cm以上が混在する。
 ・極一部の割れ目には細粒物質が付着し鏡肌が見られる。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・細粒砂岩がブロック状や細脈状で見られる。
 ・上下端境界は傾斜45~65°程度である。
 594 ~ 596 m: 590.18~591.50m
 592.04~594.85m
 595.96~596.54m
 ・泥岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~15cm、15~50cm、50cm以上が混在する。
 ・極一部の割れ目には細粒物質が付着し鏡肌が見られる。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・細粒砂岩がブロック状や細脈状で見られる。
 ・上下端境界は傾斜45~65°程度である。
 596 ~ 598 m: 590.18~591.50m
 592.04~594.85m
 595.96~596.54m
 ・泥岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~15cm、15~50cm、50cm以上が混在する。
 ・極一部の割れ目には細粒物質が付着し鏡肌が見られる。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・細粒砂岩がブロック状や細脈状で見られる。
 ・上下端境界は傾斜45~65°程度である。
 598 ~ 600 m: 590.18~591.50m
 592.04~594.85m
 595.96~596.54m
 ・泥岩である。
 ・硬質で棒状コアとして採取される。
 ・割れ目間隔は5~15cm、15~50cm、50cm以上が混在する。
 ・極一部の割れ目には細粒物質が付着し鏡肌が見られる。
 ・厚さ5mm以下の白色細脈が見られる。
 ・細粒砂岩がブロック状や細脈状で見られる。
 ・上下端境界は傾斜45~65°程度である。

HTG/インフレ

